

- ◆社会教育スタッフ調整監より (p.1)
- ◆学校教育スタッフより (pp.2-3)
- ◆総務課スタッフより (p.3)
- ◆各市町の取組～浜田市～ (pp.4-6)
- ◆各市町の取組～邑南町～ (p.6)



社会教育士

「社会教育士」の紹介をします

～「社会教育主事講習」の受講をぜひご検討ください～

社会教育スタッフ 調整監 山藤 真樹

「社会教育主事」、「社会教育士」をみなさまご存じでしょうか？学校では、社会に開かれた教育課程の実現、地域と連携・協働した教育活動の充実が求められていますが、そこで大きな力になるのが「社会教育主事」、「社会教育士」です。「社会教育士」は社会教育主事制度のより

効果的な活用を目指し、令和2年度から始まった新しい制度です。

社会教育主事とは ～ 教育公務員特例法や社会教育法には、下記のような内容が記してあります。

社会教育主事は社会教育の専門的教育職員であり、県、市町村教育委員会に必ず置かれています。さらに島根県の特徴として、現在、教員籍の社会教育主事57名が市町村教育委員会や島根県教育庁、社会教育施設（県立社会教育研修センター、青少年の家、少年自然の家、国立三瓶青少年交流の家）などにおいて社会教育を推進しています。

- ・指導主事及び社会教育主事は専門的教育職員である。
- ・都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に、社会教育主事を置く。
- ・社会教育主事は、社会教育を行う者に専門的技術的な助言と指導を与える。
- ・社会教育主事は、学校が社会教育関係団体、地域住民その他の関係者の協力を得て教育活動を行う場合には、その求めに応じて必要な助言を行うことができる。

社会教育士とは ～ 「社会教育士」は、令和2年度以降に「大学の社会教育主事養成課程」または「社会教育主事講習」を修了した人に与えられる称号です。修了者はいつでも「社会教育士」を名乗って活動することができ、名刺や履歴書等にも記載することができるようになりました。現在、わたしたちのまち、暮らしにはさまざまな課題が山積しています。社会教育士には、地域のひと・もの・ことの情報や地域の想いや願いを共有し、地域の人たちと一緒に学びの機会や新たな人との出会い・つながりをつくり、持続可能な地域をつくるのが期待されています。そこで令和2年度から「社会教育主事講習・養成課程」で学ぶ内容の一部が変わり、社会教育の制度や仕組み、基礎的な知識に加え、「ファシリテーション能力」「プレゼンテーション能力」「コーディネート能力」の3つの専門性の習得がより強く求められるようになりました。



リーフレット「社会教育士」より
(2021年 島根県教育委員会社会教育課発行)

社会教育士の専門性を学校で生かす ～ こうした社会教育士の専門性は、学校での「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業づくりや「地域とともにある学校づくり」を進めていくために大いに生かされます。さらに、県、市町村教育委員会から社会教育主事発令を受け、社会教育の現場で経験を積むことで、その専門性はより高まります。

☆広島大学講習 (7月下旬～8月中旬) (県費)

☆島根大学講習 (オンライン (週1～2回 19:30～21:10)、3回程度集合型研修) (7月中旬～1月下旬 約半年間)

☆社会教育主事講習A (東京：国立教育政策研究所社会教育実践研究センター) (7月中旬～8月中旬)

☆社会教育主事講習B (浜田：県立西部社会教育研修センター (いわみーる内)) (1月中旬～2月中旬)

上記が令和6年度に受講できる「社会教育主事講習」の主なもの。ぜひ受講をご検討ください。ご不明な点等につきまして、浜田教育事務所社会教育スタッフまで、遠慮なくお問い合わせください。よろしくお願いたします。

学校教育スタッフより

生徒指導提要

学校教育スタッフ 指導主事 永田 裕介

昨年12月に「生徒指導提要」が12年ぶりに改訂され、「生徒指導の定義」や「生徒指導の目的」がはっきりと示されました。これまでは、生徒指導の在り方等、それぞれにもっているイメージが少しずつ違うこともあったのではないかと思います。これからは方向性をそろえて生徒指導に取り組んでいくことができると考えています。

その改訂された「生徒指導提要」の中で、私が注目したところは「生徒指導の実践上の視点」です。以前の提要では3つの視点でしたが、今回新しく「安全・安心な風土の醸成」という視点が付け加わりました。提要の中では、「お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れる風土を、教職員の支援の下で、児童生徒自らがつくり上げるようにすることが大切」と示されています。これまでも「居場所づくり・絆づくり」を大切にしていこうと言われていましたが、まさにこのことだと感じています。そして、この安全・安心な風土の醸成は、大人である我々にとっても大事なことだと考えます。生徒指導の基盤として、教職員集団の同僚性を形成することが大切だと提要にも記載されています。教職員や専門スタッフ等の多職種で組織されるチームとして実効的に機能するためには、教職員集団の同僚性が不可欠です。生徒指導の実践で困ったこと、対応についての改善策や打開策等を自分なりの言葉にして、少しずつでも同僚に伝えてみませんか。そして、それを受容的・支持的に受け止めてみてください。そこから、我々にとっての「安全・安心な風土」が自らつくり上げられていくのではないかと思います。このことを基盤としながら、子どもたちの成長や発達する過程を教職員みんなで支えていきたいと思っています。

子どもたちにとって参加しやすい、学びやすい授業づくりのために

学校教育スタッフ 指導主事 大橋 里沙

●たくさんの先生方からこのような相談をいただいています！

- 〈通常の学級:担任、特別支援教育コーディネーター等から〉
 - ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりについて
 - ・集団の中で行える個に応じた支援について
- 〈特別支援学級:担任、管理職等から〉
 - ・自立活動の目標や具体的な活動等について
 - ・交流及び共同学習の考え方や進め方について
 - ・特別の教育課程編成について
- 〈校内支援体制:管理職、特別支援教育コーディネーターから〉
 - ・校内研修をどのように進めていくとよいか
 - ・理解教育の具体について

●相談の中で、このような声が聞かれました！

- ・支援の三角形(浜田教育事務所だより第95号参照)をぜひ校内で実施したい。他の先生方の支援方法を聞いてみたい。
- ・色々な支援方法があるが、どの方法がいいのか、子どもに聞きながら実施していきたい。
- ・教えてもらった支援方法が子どもたちにとってどうだったのか、また一緒に振り返ってほしい。

いつでもご相談ください！

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりは、全ての子どもの授業参加を保障するための支援です。子どもたちへのよりよい支援を考えることは、子どもたちがどう思っているのか、子どもの願いや思いを知ることから始まります。子どもの行動やことばの中にあるたくさんのヒントをもとに、よりよい支援について、先生方と一緒に考えさせていただければと思います。

TEL : 0855 - 29 - 5753 (直通)

総合的な学習の時間

学校教育スタッフ 指導主事 森脇 雅志

「しまねの学力育推進プラン」の「第2章 III 地域に関わる学習の充実」に示されるガイドブックを活用した研修が3か年計画で実施されています。今年度は2年目にあたり、浜田教育事務所管内では1月23日に浜田合庁で研修を行います。今回の研修では、昨年度の研修で計画した単元計画等の見直しを行うことや、中学校区をめぐり小中学校が一緒になって情報共有を行う計画をしています。昨年度の研修の振り返りでは、「育成をめざす資質・能力を意識した、地域（ひと・もの・こと）の活用」について課題があると回答された学校が多く見られました。今年度は、中学校区で情報共有を行うことで、地域にはどのような「ひと・もの・こと」があるのかを知っていただき、小学校と中学校が互いの取組を共有する中で、9年間を見通したカリキュラムマネジメントを行っていただきたいと思います。

先日、中国地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究大会が邑南町で行われ、矢上小学校、瑞穂小学校、石見東小学校が発表されました。大会主題を「ふるさと邑南の『ひと・もの・こと』と主体的に関わり、つながる子どもの育成」とし、各学校が、地域の「ひと・もの・こと」を生かした貴重な実践を発表されました。私は石見東小学校の6年生と関わらせていただきました。児童が地域課題について自分事として考え、教師の適切な伴走のもと、疑問があれば役場に電話したり、地域の店に協力を依頼したりと、主体的に活動に取り組む様子を見せていただきました。

1月に行われる研修では、各学校や地域がもつ「ひと・もの・こと」を活用した探究的な学習の取組を多く紹介いただけたと思います。この研修を通して、自校の年間計画や内容のまとまりについて校内で話し合われ、共有するきっかけになれば幸いです。

情報活用能力の育成に向けて

学校教育スタッフ 指導主事 永安 裕子

皆さんは、情報活用能力と聞いてどんなことを思い浮かべますか？今求められている力？ICT？学習指導要領？私はこれまで学校図書館担当を務めることが多かったので、情報活用能力と聞くと学校図書館活用教育を思い浮かべます。ここでは、情報活用能力と学校図書館活用の関連をみてみたいと思います。

学習指導要領 総則 第2 2 (1) 文部科学省

「各学校においては、児童（生徒）の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」

教育の情報化に関する手引き 第2章 情報活用能力の育成 文部科学省

「『情報活用能力』は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。」

学校図書館ガイドライン (3) 学校図書館の利活用 文部科学省

「学校は、学習指導要領等を踏まえ、各教科等において、学校図書館の機能を計画的に利活用し、児童生徒の主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努めることが望ましい。その際、各教科等を横断的に捉え、学校図書館の利活用を基にした情報活用能力を学校全体として計画的かつ体系的に指導するよう努めることが望ましい。」

学校図書館を活用した調べ学習などの探究的な学習を通して、様々な情報を活用し「学び方を学ぶ」ことができます。そして、ICTを活用することで、その学習はさらに広がります。何より、子どもたちが楽しそうに生き生きと学ぶ姿を見ることができます。情報活用能力を身に付ける一つとして、学校図書館活用はおすすめです！

総務課スタッフより

令和5年10月から、三浦 千奈（みうら ゆきな）が新たなメンバーとして加わりました。主に、県内日帰り旅費を担当します。よろしくお願いします。

各市町の取組 ～浜田市～

Y. A. C. (通称 ヤック)

浜田市教育委員会 派遣社会教育主事 山本 浩樹

私の浜田市での職務の中に HAMADA 教育魅力化コンソーシアムの活動支援があります。HAMADA 教育魅力化コンソーシアムでは、これまでワークショップや学習会などを開催して、高校生の探究活動を支援してきました。その一環で、今年度から高校生の地域での活動をサポートする仕組みとして「Youth Activist Club」(通称 ヤック)を立ち上げました。「Youth Activist」とは「青年活動家」を意味し、「Y. A. C. (ヤック)」とは、浜田市内の高校生が地域活性化を目指して、自らのやってみたいことや得意なことを地域に飛び出して、主体的に企画・実施していく、課外の「地域系部活動」です。参加する高校生同士は、学校間を飛び越えて繋がり、様々な地域活動に取り組みます。高校生が自分のやりたいことや得意なことを活かして、地域のために行動すると、地域から認められ、褒められます。そうすると高校生の自己有用感、学習意欲、探究意欲が高まり、次の課題に、より主体的に取り組むようになります。「学び」と「行動」の好循環が生まれ、将来の住みよい浜田を創造する未来人が育ちます。

現在、浜田高校、浜田商業高校、浜田水産高校の3校から26名の生徒が加入して、「各種イベントへの参画」「地域資源の調査・研究」「商品開発」等の活動をしています。普段は高校ごとにそれぞれ活動していますが、3校が連携・協働した活動をする場合は、「浜田市まちなか交流プラザ」に集まって企画会議をします。「浜田市まちなか交流プラザ」は、若者の居場所や多世代がつながる交流の場として今年7月に浜田駅近くの浜田商工会館1階にオープンしました。コンソーシアムは、将来ここを拠点に小学生・中学生・高校生・県大生の地域活動が繋がって、持続可能な「ひとづくり」「まちづくり」に発展していくことをめざして「Y. A. C. (ヤック)」の活動を支援していきます。

浜田親子共育応援プログラム(HOOP!)



浜田市教育委員会 派遣社会教育主事 原田 千里

県の「結集！しまねの子育て協働プロジェクト事業」の浜田市版である「はまだっ子共育推進事業」の柱の1つに「家庭教育支援」があります。浜田市では、この取組として、県の親学プログラムをベースにした、市独自の取組「浜田親子共育応援プログラム」(通称「HOOP!」:フープ)を実施しています。

HOOP!は、ファシリテーターの進行のもと、対話を中心としたワークショップや、プログラムによっては保健師等の専門的な知識をもった方によるメディアコントロールや愛着形成に関わる講義等を実施しています。主に、市内の幼児教育施設や小学校の保護者を対象に、参観日や就学時健診、1日入学等、保護者が集まる機会を利用して行っています。令和5年度は、幼児教育施設、小学校、市PTA連合会、子育て世代包括支援センターにおいて、計23回(10月末時点)の実施を予定しています。

HOOP!では、「対話による参加者自身の気づき」を大切にしています。子育てをする中での悩みや喜びなどを話すことで、参加者がスッキリとした気持ちになること、また明日から頑張ってみよう！という前向きな気持ちになること、保護者同士の良い関係づくりにつながることを目指しています。保護者が元気であることや保護者同士の仲が良いことは、子どもたちにとってもよい影響があると思います。

これまで小学校においては、就学時健診時の実施依頼が多かったのですが、今年度は、学年懇談会やPTA研修会等で実施するケースもあります。また、参加者も、保護者だけでなく、地域の方にも声をかけてみようかという話もありました。残念ながら、今回は希望者がいませんでしたが、地域ぐるみで子どもを育てることにつながる事例となりました。

HOOP!は、保護者に直接届けていくものです。そういった意味でも、幼児教育施設や学校の先生方にも HOOP!の意義やメリットを知っていただくことで、一人でも多くの保護者へ届けていけたらと思います。

日々是新

浜田市教育委員会 派遣指導主事 品川 仁志

生徒指導を中心に担当して4年目となりましたが、「日々是新なれば、すなわち日々是好日。」の言葉を胸に、日々を新鮮な心で迎え、仕事に取り組んでいます。

○浜田市では不登校児童生徒が年々増加しており、対応が急務となっています。市教委では初期段階での対応が重要と考え、今年度、新たな取組として「初期対応ケース検討シート」を作成し、活用をお願いしています。欠席日数が少ない段階で、学校以外の関係機関にも関わってもらいながら、児童生徒、家庭への支援のあり方を検討し、組織的に継続して対応していくことをねらいにしています。多面的・多角的な視点での関わりが、一人ひとりを大切にされた支援につながると考えています。

○今年度は久しぶりに市教研の生徒指導部会の研修が集合型で開催され、その会に参加させていただきました。昨年改訂された「生徒指導提要」をもとに、各校の生徒指導の実践状況についてグループ協議、全体会がありました。互いに顔を合わせ、1枚の模造紙に向き合いながら意見交流される姿を見て、コロナ禍の制限がなくなったことで、より意義のある研修ができたように感じました。

○各学校にはご多用の中、夏季学校訪問やS SW巡回相談に対応していただきありがとうございました。情報共有ができたことで、児童生徒、家庭への支援につながったケースもあり、来年度も訪問の取組を継続していきたいと思えます。

目まぐるしく過ぎる日々ではありますが、二度と繰り返すことのない大切な一日を子どもたちも私たちも過ごしています。「日々是新」今日という日を大切に、市教委も「チーム学校」の一員として、一緒に取り組んでいきますので引き続きよろしく申し上げます。

「寄り添う」支援

浜田市教育委員会 派遣指導主事 田中 律子

今年度より、特別支援教育の担当をしています。

先日受けた研修会で、「学校は子どもたちの夢と希望を叶える場所であり、できなさを浮き彫りにする場所ではない。」という言葉を見ました。つつい私たちは、子どもの姿から困りごとを見つけ、「何とかできるように」と思いを巡らせてしまいます。これもとても大切なことなのですが、合わせて、子どもの「こうなりたい！」という思いや願いに寄り添い、その実現に向けて何ができるのか、という視点も忘れてはいけなと改めて感じました。子どもの困りごとだけでなく、「今できていること」や「できかけていること」、「得意な力」や「好きなこと」も先生方と共有し、その力を生かしてより充実した日々になるように、学校や学級でできることや支援方法等について、一緒に考えさせていただきたいと思えます。

浜田市の取組紹介 「相談支援チーム」による学校訪問

浜田市では、各学校等のニーズや実態に応じて、はまだ特別支援教育相談室STEP、特別支援教育支援専任教員、西部発達障害者支援センターウィンド、子ども・子育て支援課、地域福祉課等と連携した「相談支援チーム」での訪問を行っています。特別な配慮を必要とする子どもの早期発見・早期支援につなげるために、校内委員会で検討の後、ご活用ください。

子どもたちが夢や希望をもって笑顔で過ごせるように、先生方や関係機関の方々とつながりながら、特別支援教育の推進と充実に向けて一緒に取り組んでいきたいと思えます。よろしくお願ひいたします。

「たくさんやる」

浜田市教育委員会 派遣指導主事 青木 良輔

これは、浜田市の5種類9校の研究指定校のうち、「算数科授業改善指定校」のアドバイザーである環太平洋大学の前田一誠教授が、授業改善の視点の一つとして繰り返し強調される言葉です。それを踏まえて、浜田市教育委員会としても、算数・数学に限らず、この「たくさんやる」を授業改善の重要な視点と考え、各学校訪問の際にもお伝えしています。

私が中学校勤務の際、体育祭の応援練習を眺めるたびに「数学の公式はなかなか覚えられないのに、よくもあんなに難しいダンスをあっという間に覚えていくもんだなあ」と感心していました。たくさん踊る中で「ここってこういう動きだよな？」と友達と対話をし、音楽がかかっている隙間時間にも進んで踊る子どもたち。今一度振り返ってみると、これこそ「主体的・対話的で深い学び」が実現している姿だなと思います。私自身が学生時代に部活動に取り組んだ経験等とも関連付けると、「たくさんやる」からこそ、主体的に、対話的に、深く学んでいけるのだらうと感じています。

勿論、ただたくさんやらせるだけでは不十分です。ゴールにおける子どもの姿を具体的にイメージしながら、「何をやらせるか」を考えることが大切です。「既習問題をたくさん解く過程で本時の問題を提示することで、自ら問いを見いだしたり、解決への見通しを立てたりする」、「たくさん例に触れることで概念を形成する」、「発展的な問題や次時につながる問題をたくさんやることで、統合的・発展的な考えや新たな問いを見いだす」など、「たくさんやる」の価値は様々です。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて日々奮闘しておられる浜田市の先生方の授業づくりを、これからも支援していきます。

各市町の取組 ～邑南町～

地域とともにある授業づくり

邑南町教育委員会 派遣指導主事 堀尾 亮介

邑南町教育委員会では、児童生徒同士や地域社会へのつながりを重視し、教育資源である「ひと・もの・こと」を活用し、自ら考えを広げ、深め、対話的な学びを実現することを目標に、授業改善に取り組んでいます。

過日、第10回中国地区小学校生活科・総合的な学習の時間教育研究大会が、邑南町内3つの小学校を会場に、久しぶりの参集型で行われました。総合的な学習の時間では、出羽川・久喜銀山など邑南町の豊富な教育資源をもとに、探究的な学習が公開されました。

2年生の生活科の授業では、「町に住んでいる働く人」に着目し、「わくわくツアーのコンダクターになるために町のどこに探偵になろう」という単元目標が設定されました。子どもたちがお店の人や働く人にインタビューを行い、実際に質問することやそれに答えてもらう体験を通して、様々な気づきを獲得していました。研究大会当日、「町の人が〇〇な謎を解こう」という課題が設定され、今まで見つけてきた地域のよさをカードを用い、自分の伝えたいことを焦点化しながら、グループでの話し合いが行われました。その場面では、それぞれの意見を線でつなげたり、まとめたりしながら、自分たちの町に住む人は、どのような思いをもっているか関連づけて考えていました。さらに、その後のクラス全体での話し合いを通して、地域の方の優しさや笑顔である理由など、地域の方の新たな思いに気づき、深める授業が展開されました。

このような学習を進めることは、自分たちの日々の生活と結びついた生きた知識・技能につながります。また、自分たちが住んでいる地域の人々とのつながりを深め、低学年の頃から「自分たちが住んでいる地域」に対する親しみや愛着を育むことにもなります。見学や話し合いで子どもたちが学んだことは、地域の方にとっても意味のあることであり、授業とともにある地域づくりにもつながっていくことでしょう。